

だいがくの研究

折口信夫

青空文庫

夏祭浪花鑑の長町裏の場で、院本には「折から聞える太鼓鉦」とあるばかりなのを、芝居では、酸鼻な翦殺しの最中に、背景の町屋の屋根の上を、幾つかの祭礼の立て物の末が列つて通る。あれが、だいがくと言ふ物なのである。尤、東京では、普通の山車を見せる事になつて居る様であるが、此は適当な翻譯と言ふべきであらう。

一昨年実川延二郎が本郷座で団七九郎兵衛を出した時は、万事大阪の型どほりで、山車をやめて、だいがくを見せたとか聞いて居る。一体此立て物は、大阪の町に接近した村々では、夏祭り毎に必出した物であつたが、日清役以後段々出なくなつて、最後に木津（南区木津）の分が、明治三十七八年戦争の終へた年に出たぎり、今では悉皆泯びて了うて居る。此処には木津のだいがく乗つて居たのではなからう。

別図の様な態を備へる事になつたのは、今から六十年程の前の事で、其以前は天幕テンマクの代りにひげこが使はれて居たのである。ひげこは、必、二重ときまつて居たさうである。明治三十年頃までは、西成郡勝間村・東成郡田辺村などには、ひげこのだいがくを昇いで居るのを見かけたものである。

一体ひげこは日の子の音転で、太陽神の姿を模したのだ、と老人たちは伝へて居るが、恐

らくは、豎棒の上に、髯籠ヒゲコの飾りを取りつけて居たのが、段々意匠化せられて出来た（髯籠の話参照）ものか。今日なほ紀州粉河の祭礼の屋台には、髯籠を高くとりつける。のみならず、国旗の尖にもつけ、五月幟の頂にもつける事がある。竿頭を繖形に殺ぎ竹を垂して、紙花をつける事は、到る処の神事や葬式の立て物にある事である。

但し今一つ考へに入れて置かねばならぬのは、傘カサ鉾ボコの形式で、此は竿と笠とだしの三つの要素で出来て居る事である。一体傘鉾は、力持ちが手で捧げながら練つたものであるが、此が非常に発達した場合には、籠に樹てゝ昇るか、車に乗せて曳き歩くより外に道はなくなる訣である。

だいがくの成立した形は、前者である。尚老人たちは、だいがくに数多の提灯をとりつける様になつた起りを、ある年の住吉祭り（大阪中の祭礼として、夏祭りの一番終りに行はれる）に、住吉まで出向いただいがくが、帰り途になつて日の暮れた為、臨時に緯棒ヌキを括りつけて、其に提灯を列ねた時からだと説いて居る。

其はともかく、住吉祭りといふ事が、だいがくと住吉踊りの傘鉾との関係を見せて居る様に思はれる。天幕に一重のも二重のもある点、竿頭にだしのついてある点、すべてかの踊りの傘鉾を、籠の上に豎てた物としか思はれぬ。熊野田クマンダのがくに近いだいがくのひげこが、

形似の著しい傘鉾の形式をとり入れるとすれば、まづひげこを天幕にすべきは当然である。其傘鉾の天幕も、元はひげこであつた事は疑ひもない事実である。

だいがくのひげこは二重の上の方が大きくて、直径一丈で、下の方のは大分小さい。第一図の如く、蛇の目傘の様な形で、外囲りは藍紙、中囲りは赤紙、内廻りは亦藍紙を張つてゐる。外囲りの藍紙は、内の紙の倍の長さに作る。骨は竹である。日向国児湯郡三納ミノの盆踊りの中に立てる花傘の紙花を「ひ」と言ふのも、名称上の關係があり相に思はれる。西鶴の「諸国ばなし大下馬」に見えた紀州の掛作觀音の貸し傘が、肥後の奥山家に飛んで、古老の鑑定で、伊勢外宮日の宮の御神体だとして祀られたと言ふ話も、髯籠・傘鉾の信仰に根ざしあるものと思はれる。

天幕を使ふ様になつてから、非常に華美を競ひ出して、長さ八間幅一間余の緋羅紗に、大ヲ蛇ロチタイヂ対治の須佐之男命・石シヤクケウ橋・予讓・楠公子別れなど、縫模様シヤクケウの立派な物になつた。

天幕の裏はすべて墨書きの雲であつた様に思ふ。村と村との間ばかりか、一村の中の町々でも競争する処から、果は簞の地についた処からだしの尖端まで、十七間から十八間位の高さになつて、重さは二千貫、八十人乃至百人の力でなければ、動す事が出来なくなつた。だいがくトコロの名処トコロのゑトコロときトコロをして見ると、

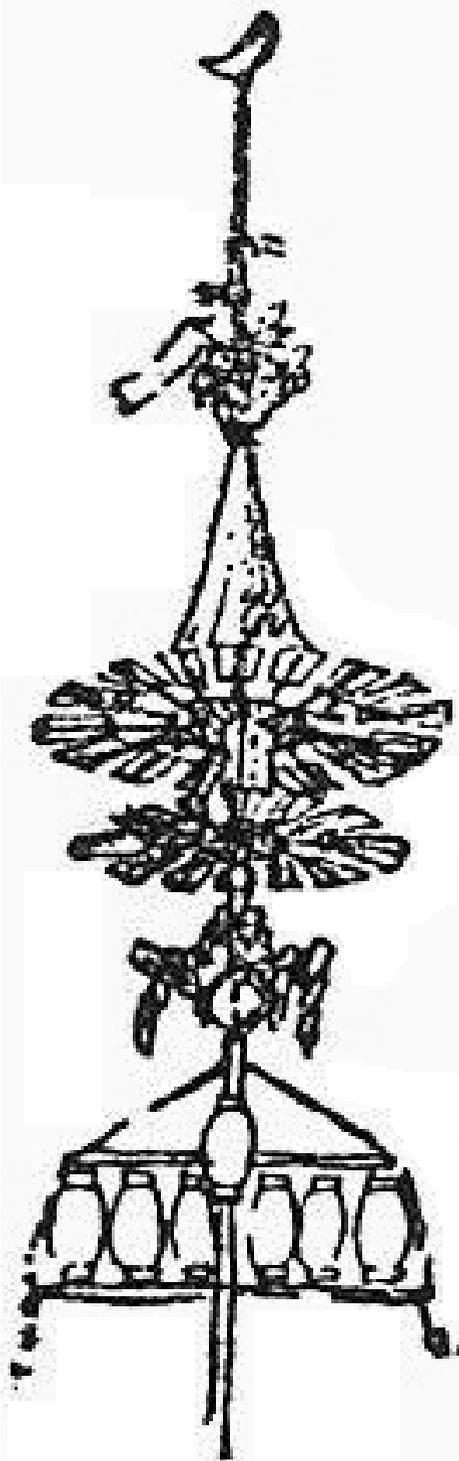
イ だし又はほことも言ふ。長さ凡一丈。町々で皆違つた物をつけてゐる。三日月・一イツポ
 本劔シゲほこ・三本劔ゲほこ・薙刀ほこ・千成り瓢箪ほこ・神楽鈴ほこなどで、中でも、新
 町の薙刀ほこをつけただいがくは、常によく活動して居た。西の町は、後に一本劔にな
 つたが、古くは粟穂になるこで、なるこは鳥居に垂れてゐた処であつた。
 ロ ふけちり 紋は、巴と木モツクワウ窠を裏表につける。但し、東の町は、五色のばれん。
 ハ さんじやのたくせん 三社の託宣であらう。藁を束ねて結ぶ。伊勢・八幡・春日を表
 すと言ふ。

ニ 榊と御幣 ほこの結び目を掩ふ様にしてつける。

ホ ほこ だしをもほこと言ふ事はあるが、此とは別である。円錐形に縫うた緋羅紗の袋。
 巴と木窠とを、反対の側に白く縫ひ出す。(東の町は錦襪)。

ヘ てんまく 緋羅紗(白羅紗の物もある)に武者・龍虎・鳳凰など縫うた物。錘シツ代りに
 無数の小さな鈴をつける。

ト へだての額 天幕と天幕とを隔てる額の意。ひげこのだいがく(別図。向つて右方の
 小さい物)の形式が残つたのである。長方形のはりこの函で、四方に天下太平・五穀成
 就・今月今日・祇園宮と書いてある。



因に、木津の氏神は、難波の名高い八坂とは別で、木津の祇園（敷津松の宮と言ふ）である。

チ 額 八坂神社と書く。

リ まむり 守り袋の大きな物を、鐘樓の撞木の様に吊る。赤地錦欄である。

又 一人持ち提灯 額の下、第一の緯木ヌキの上下に、直角にさした腕木ヌキの間に吊るので、此

提灯を始め、提灯といふ提灯は皆、町チャウ々の紋を描く定めである。昔は「一人持ち」

と共に、五十七箇のきまりであつたのが、後には百七箇迄殖えた。

ル みづひき 紅白の縮緬で、緯木を結ぶので、昔は白木綿であつた相である。最後の緯ヌ

木キで結び垂げる。

ヲ 引き綱 正面と裏とに、一筋づゝ垂げてゐる。麻縄である。

ワ 緯木ヌキ 明治以前は七本、以後は九本になつた。

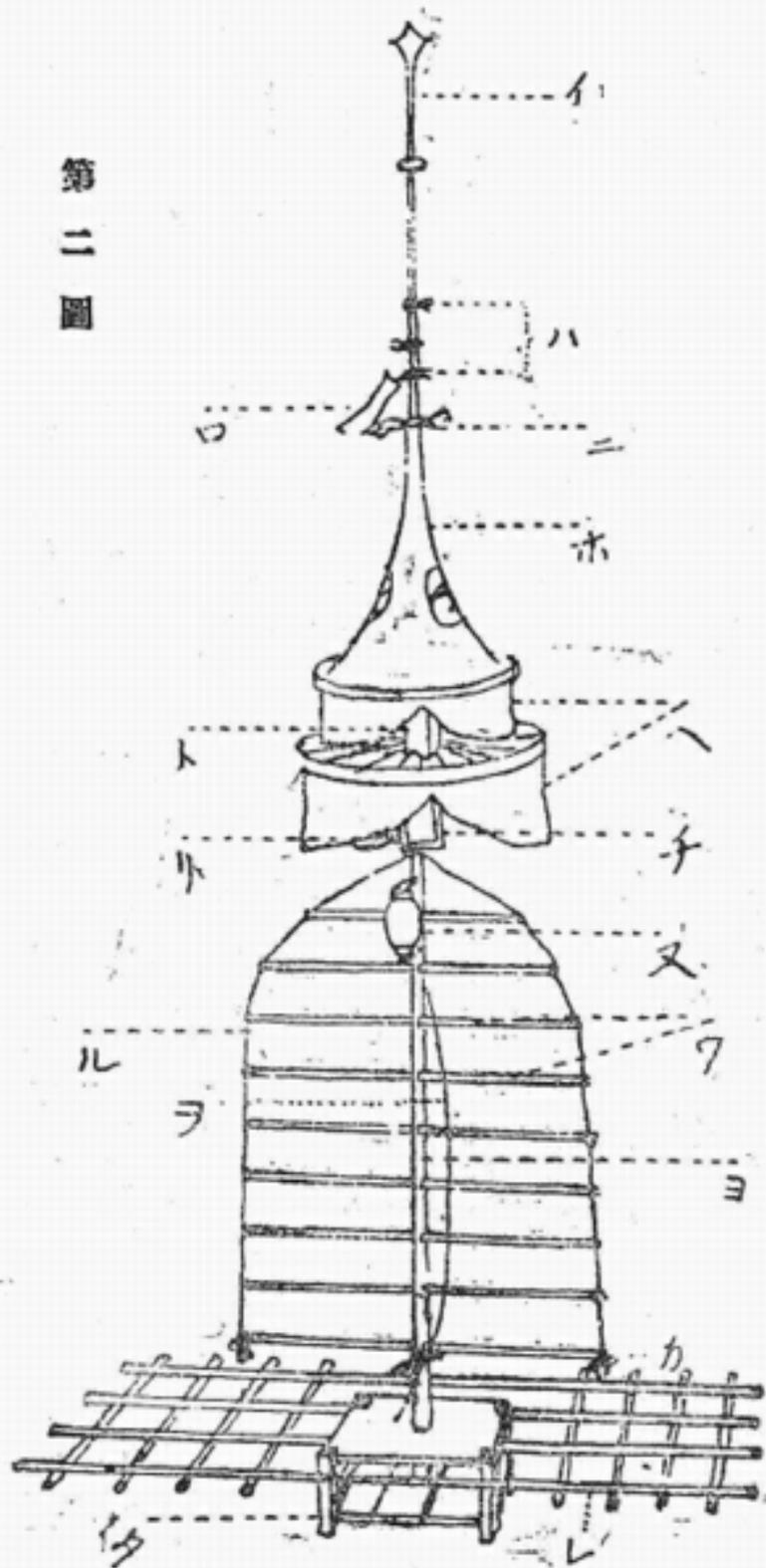
カ 絹房と鈴と 水引きの末を隠す様につける。

ヨ 経棒タテボウ 十五間乃至十六間。緯木と共に檜を使ふ。

タ 簍 高さ一間。檠を用ゐる。

レ 昇き棒 豎長さ六間。横長さ二間。

第二圖



一体、大阪の町は勿論、農村ばなれをして来た郊村では、夏祭りは盛んだが、秋には唯、型ばかりな処が多い。だいがくなども、覚えてからは、秋祭りには出た事がない。多くは宵宮から二日間昇いたが、後には三日も昇いた。町々の広場で、横に寝さして組むので、組みあがると、引き綱とつかひ棒とで起すのである。本祭りの日には、宮の前の大道に縦列を作つて、勢揃へをする。かう言ふ時に、とりわけ喧嘩が多かつた。

だいがくを動すのは、音頭と太鼓の拍子とである。唄の文句には、別に特有の物はない。此は、此たて物が近世に出来た物だと言ふ事を示してゐるのである。

大阪^{オサカ}出てから、はや、玉造。笠を買^ウふなら、深江が名所

などが、記憶に止つてゐる。其外は「春は花咲く青山辺で、鈴木主水と云ふ士は」などいふやんれぶしの文句を使うた様である。音頭とりは、太鼓打ちや、子どもらと、簍の上に乗つて居て、ゆり甲^{カン}と言つた調子で謡ふ。譬へば「大阪はなれてはや玉造」まで謡ふと、総勢が昇き棒から肩をはづして、

よゝいゝゝよいゝゝよい。そこぢやいなく。あどっこい、どっこいとお　なよいゝゝ
ゝ。よいさゝゝゝ

と合唱して「なよいゝゝ」まで来ると、皆手を拍つて肩を入れて昇き出す。「よいさゝゝ」

は昇きながら言ふことになる。昇きはじめると、又「笠を買ふなら、深江が名所」と謡ふ。此句ぎれ迄来ると、又囃しがはじまる。かうして、繰りかへしくする中に、かなりの距離を動くのである。

たて棒は、引き綱で、廻すことが出来る様になつてゐたが、何にしろ非常な重みだから、さう自由にはならなかつた。夜は燈を入れて昇いた。其ゆさくと揺れて行く様は、村人の血を湧き立たせたものである。

電信の針金が、引かれてからは、昇いて廻る範圍を狭められたが、其でも祭り毎には、必昇き出した。併し、木津の家並みの処では、許されぬ事になつて、処をはづれた野原などに立て、長さ一町位の広場を往来するだけ位で、辛棒してゐた。

とう／＼、松の宮の境内に、絵馬堂を拵へるといふ事で、豎棒を切つて、其柱にしてからは、祭りが来ても、だいがくは出なくなつた。天幕其他、未練の種になる物はすべて売り払はれて、揃へのゆかたの若者どもが、右往左往に入り乱れる喧嘩沙汰も痕を絶つことになつた。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集 2」中央公論社

1995（平成7）年3月10日初版発行

底本の親本：「古代研究 民俗学篇第一」大岡山書店

1929（昭和4）年4月10日発行

初出：「土俗と伝説 第一巻第一・三号」

1918（大正7）年8、10月

※底本の題名の下に書かれている「大正七年八・十月「土俗と伝説」第一巻第一・三号」はファイル末の「初出」欄に移しました。

※校訂者注は除きました。

入力：門田裕志

校正：多羅尾伴内

2007年4月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

だいがくの研究

折口信夫

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>